

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

17年10月5日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部文科3類	学年(プログラム開始時):	2年
参加プログラム:	(4) Global Study Program - Summer Session[Full-Time]	派遣先大学:	カリフォルニア大学デービス校

卒業・修了後の就職(希望)先:

<input type="radio"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

農業に関して世界第一位である名門校。広大なキャンパス内には牧場がある。

参加した動機

世界的な名門校で、これまで経験したことのない留学をすることで、自分の視野を広げたかった。また、本場アメリカで、アメリカ文化について学びたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には、先方から送られてくるメールの指示に従って入れれば大丈夫です。メールを読むうちに英語力もついてきます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

手続きは早めにしましょう。アメリカ大使館のホームページには説明動画があり、非常にわかりやすかったです。申請フォームは時間がかかります。また、必要書類や写真を集めるのも少し手間がかかります。ですが、インタビューは驚くほどあっさりと終わります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯科健診を受けておきましょう。予防接種は特に打ちませんでした。市販薬をいくつか持って行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大で用意された保険にのみ加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

前期教養学部では単位認定を行っていないということで、特にありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

NHKのABCニュースシャワーを見たり、洋書をいくつか読みました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

たいていのものは現地で揃います。書類にはイーサネットケーブルが必要と書いてありましたが、実際は必要ありませんでした。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

演劇の授業とアメリカ音楽文化に関する授業を取りました。演劇の授業はクラスで非常に仲良くなります。アメリカでは演劇が発達しているだけであって、非常に興味深いトレーニングを受けることができました。仲良くなった仲間と、近くのサンフランシスコへ旅行へ行ったりもしました。アメリカ音楽文化授業では、ミュージカルやラップといった現代のポップミュージックを学びました。そこからアメリカにおける人種・ジェンダー・階級問題を考察するという内容があり、アメリカ社会の現状や、それに対しアメリカ人がどう考えているのかという姿勢を見ることができ、非常に有意義でした。

②学習・研究面でのアドバイス

音楽文化授業では予習のために読まなければいけないPDFが結構ありました。毎週小エッセイがでたりもしました。ですが、次第に慣れていくと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

多少自信がなくても、コミュニケーションという点ではなんとかなります。ですが、できるだけ出国前に勉強しておくことは重要だと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮に滞在しました。毎食、カフェテリアでの食事付きです。寮でも、韓国や中国、エジプトからの留学生と仲良くなれたほか、現地学生との交流もありました。寮の申請方法が複雑で、留学生寮の場合は先方からのメールのみに従えばよいですが、現地学生寮に宿泊したい場合は、自分でサイトから申請する必要があります。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

現地通貨の調達方法として、デビットカードを持って行ったため、現金を持っていく必要がなく、現地ATMでそのつど引き出しました。クレジットカードによるキャッシングは未成年のため許されていませんでした。自分の携帯はSoftBankでしたが、アメリカ放題というプランがあり、現地で無料でインターネットが使えました。気候は、昼間は非常に暑いですが、朝晩は寒いです。布団がないと寒くておきてしまいます。交通機関としては、ぜひ現地で自転車を買うべきだと思います。ターゲットという郊外型ホームセンターで安く手に入ります。デイビスは小さな町で、駐輪場も町中に完備されており、自転車さえあればどこへでもいけます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

デイビスの町の治安は素晴らしいです。自転車泥棒にさえ気をつけて入れば、日本とそれほど変わらない様子です。自転車のロックだけは、Uロックという鉄製の頑丈な鍵を、二つは少なくとも使いましょう。鍵一つでは、盗まれたという学生がかなりいました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空機往復11万円 寮費25万円 学費40万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金と、東大卒業生有志による奨学金をいただきました。東大経由で自動的に手続きができる感じでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

金土日には授業がないので、宿題を終えたり、寮仲間や授業仲間と近郊のサクラメントやサンフランシスコへ旅行しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UCデイビスによるサポート体制は非常に手厚いです。オリエンテーションもしっかり説明があり、真摯に対応してくれます。語学・生活・精神面のサポートのみならず、留学生同士で交流できるようなイベントもありました。不安は多いでしょうが、サポート体制は万全ですので、安心して良いと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館には24時間自習室があります。立派なジムもあって無料で使えます。食堂も綺麗ですが、それぞれの食事の時間が決まっている点が少し不便でした。

プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
やはり、1ヶ月半の間、全く違う文化圏で生活するということがそのものが大きな意義を持っています。人々のコミュニケーションや考え方、哲学も全てが全く異なり、普段自分たちが常識と思っていることがいかに相対的なものにすぎないかを実感しました。アメリカ社会の歪みを発見することもある一方で、日本社会の理不尽を痛感することも多々あります。一人で毎日を過ごしていく力や、一人で様々な場所へ冒険していく大胆さなど、人間として非常に大きく成長できたと考えています。
②参加後の予定
文学部行動文化学科社会学専修課程に内定し、卒業した後は大学院に進学し、大学への就職を考えています。GLPプログラムに応募中であり、短期留学はさらにしていきたいと考えています。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
人生の中でかけがえのない一夏になると思います！不安は絶えないと思いますが、本当に素晴らしい経験になるので、自分の決断に自信を持ってください！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
アメリカ大使館のホームページは、日本語でしかもわかりやすくビザ申請の方法を丁寧に説明しています。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 10 月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	UCDavis Summer Session 2	派遣先大学:	UCDavis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

<b>派遣先大学の概要</b>
カリフォルニア大学デービス校は世界でも屈指の生物関連の研究設備を誇る州立大学です。
<b>参加した動機</b>
4年で大学を卒業したかったので長期休暇の間に参加できるプログラムを探していたので、東大の夏休み期間とぴったり重なる本プログラムに惹かれました。また、実際にその大学に通う一般の学生と同じ授業を受けられることも魅力でした。
<b>参加の準備</b>
<b>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)</b>
とくにありません。国際交流課の方にメールなどで分からないことは早めに聞いておくと安心かもしれません。
<b>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)</b>
ビザは申請の手続きが複雑なので、できるなら知り合いなどと一緒に確認しながら作業すると安心かもしれません。
<b>③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)</b>
予防接種を受けましたが、周りは誰も受けておらず、副作用に苦しんだくらいなので特にする必要はないと思います。
<b>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)</b>
東大で提供している保険に入りました。
<b>⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)</b>
とくにありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

とくにしていませんでしたが、リスニングに慣れておけば楽だったかなと後悔しているので、直前に英語に触れる機会を作るといいかもしれません。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

甘くない日本のちょっとした食べ物を持っていくと安心材料になるかもしれません。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

普通の学生と同じ授業を6週間取ることが出来ました。  
私は大教室での講義系を一つ、少人数でのインタラクティブな授業を一つ取っていましたが、それぞれ違う大変さがあるので(前者は覚える内容が多く、後者は授業の中の先生や他の生徒の発言についていくのが大変)違う形の授業をとるとよいのではないかと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

現地の先生はやる気のある生徒にやさしいので、発信することをためらわずにいくことが大事なのかと思います。  
私は社会学の授業の内容についていけず、先生に相談したら、先生のNetflixのアカウントを貸していただき(!)、関連する内容のビデオを紹介していただいて予習兼復習に使っていました。

③語学面での苦勞・アドバイス等

英語が本当に速いので聞き取るのに苦勞しました。こればかりは慣れるしかないのだと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学校の寮に宿泊しました。  
誤って長期滞在用の新しい寮の三人部屋に一人で住むことになってしまい、最初の頃は寂しかったです。慣れれば友達を連れ入れるのにも楽しいですが、ルームメイトとは仲良くなりやすいと思うので、できれば他の人と一緒にの部屋になれたほうがいいのかと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

寒暖差が大きく、昼は40度以上もざらにある一方で朝晩は冷え込みます。部屋着は暖かいものを持っていったほうが無難です(私の寮は24時間クーラーを消せなかったので特に困りました)  
市内はバスが走っていますが、夏は本数が少ないです。私は徒歩で移動していましたがダウンタウンまで30分弱かかるので自転車を借りるか買うほうが楽だと思います。  
食事は三食寮でバイキング形式だったので楽でした。寮の近くにコンビニもあったので便利でした。  
お金は最初に10万円分を換金して生活費に充てていましたが、それで大体十分でした。カード社会なのでクレジットカードも作っていききました(カードを頻繁に利用するのなら現金を大量にもっていかないほうがいいのかと思います)

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとていいですが、夜中は誰かと一緒に外に出るようにはしていました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費:20万  
授業料:30万  
家賃:25万  
その他:20万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOと東大の奨学金で合わせて32万いただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末はサンフランシスコやラスベガス、サクラメントなどに出かけていました。  
基本授業があまり多くなく暇なので旅行はとていいと思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

International Centerなるものがあり、あらゆる相談に乗ってくれます。一回レポートの書き方を教えていただきに行きました。温かい雰囲気の場所でした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

とても充実しています。  
図書館は本が300冊まで借りられるそうです。あと学生が無料で使えるジムがあります。  
食堂は広くてきれいでした。出てくるメニューは毎日結構似ていますがおいしいです。  
校内に無料のWi-Fiがあったのでその点でも便利でした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

はじめはあまり考えていなかった留学ですが、知らない土地で勉強する機会が戴けたのはありがたいと思っています。  
カリフォルニアの人びとはみな温かい方ばかりなので、留学生にやさしい環境だったのも、のびのびと生活し成長できた原因だったように思います。

②参加後の予定

まだ決めていません。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

周りの友達が、日本人も他の外国の人も皆きらきらと輝いているように見えて落ち込むこともあると思います。どうかつらい気持ちにならずに、自分なりの小さな目標をたてて、それを忘れないでください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017年 10月 10日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：	Global Study Program, Summer Session	派遣先大学：	UC Davis
卒業・修了後の就職（希望）先：			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職（医師・法曹・会計士
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業（業界： ）	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

UCBerkeleyの農学系のキャンパスだったものが、独立したため、農学、栄養学、生物学などの研究が強い。湖や農場を備えている広大な土地がキャンパスの特徴。

参加した動機

交換留学を考えていたので、候補の国の一つであったアメリカで、どのような授業、生活を知らなかった。また、インターナショナルな友達に囲まれることで、自分の視野を広げられた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

UCDavisや東大から送られてくるメールに対応すれば問題ない。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの申請登録に時間がかかるので、早めに行った方が良い。アメリカ大使館がwebsite上にビザ申請の方法をビデオにて説明しているので参照すると良い。非常にわかりやすい。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

健康診断、予防接種は特にしなかった。現地では使わなかったが、普段日本で使用する胃腸薬と頭痛薬を持って行った。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

東京大学指定の海外旅行保険に加入した。UC Davisから保険の紹介があり、申請したが、後で取り消した。UC Davisに保険情報を送らないといけないので、早めの対応をすると良い。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

夏休み中にプログラムが開催されたので、特に手続きは必要なかった。

## ⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

TEDなどで、英語の動画を見て学習した。特に、留学前に東京大学で履修していた科目に関する動画を見て、授業の理解も深めた。

## ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

クレジットカードを2枚以上もしくは、デビットカードを用意しておくといよい。クレジットカード1枚のみを持っていったが、認識されないときがあった。(現金を受け付けないお店もあるので、クレジットカードを用意することは必須である)

## 学習・研究について

### ①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

それぞれの授業によって形式がことなるが、私が受講した2つの講義について記述する。1つは栄養科学である。大講堂でおこなわれ、テストが二週間おきにあった。選択肢のテストであるので難しくはない。もう1つはラテン語とギリシャ語の授業である。こちらは少人数制のクラスで先生と生徒間のコミュニケーションが活発であった。先生は積極的で生徒の質問に丁寧に答えてくれた。毎週テストがあり、テストの範囲が広がったので、授業後の勉強が必須である。英語の専門用語はラテン、ギリシャ語をもとに作られているので、この授業は専門用語の理解に役に立った。

### ②学習・研究面でのアドバイス

授業後は復習を欠かさず行なった。私が履修したコースはどちらもReading課題が少なかったが、参考図書などを利用して理解を深めた。

### ③語学面での苦勞・アドバイス等

聞き取れないこともあったが、online上にあるスライドをみて予習復習することで対応した。

## 生活について

### ①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など）

大学の提供する寮に滞在した。三食付きである。UCDavisが農学、栄養学に力を入れているため、食事は美味しくかつ健康的なものだった。(ビュッフェスタイルなので個人にもよるが)

### ②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

気候は非常に良い。朝晩は肌寒く、昼は暑い、雲ひとつない晴天の日がほとんどであった。40日間の滞在中に雨が降ったのは計10分程度である。交通期間に関して、大学内では現地で購入した自転車を使った。大学が自転車向けに設計されており、所持する生徒が多かった。Davisから出ようとする、バスやamtrackを使う必要があり、便利とは言えない。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は非常に良い。夜は大学内を大学の警察がパトロールしている。日頃体を動かすようにして、健康管理した。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券20万程度(羽田-San Francisco間往復)、授業料30万程度、教科書代1万円程度、家賃30万程度

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

Jassoと東大卒業生有志から計32万

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

Outdoor Adventureという大学内にある機関が、ハイキングやキャンプなどをUCDavis在学中の学生に低価格で開催している。Davisから車で連れて行ってくれるため、非常に便利である。また、友達を作るいい機会でもある。先着順なので早めに申し込むと良い。私は授業を火水木だけになるように選択したため、週4日の休暇を得た。休暇を利用してボストン、サンフランシスコ、サンノゼ、ナパに行った。また、ジムの設備がとてよく、朝早くから夜遅くまで(平日は5:00am-11:00pm)やっている。私は週1回のダンスレッスンを受講した。

**派遣先大学の環境について**

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

Global Study Program担当スタッフが親身になって相談を聞いてくれる。iPhoneを紛失した際も、アドバイスを多々もらった。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

24時間の勉強スペースが図書館に取り付けられている。立派なジムがある。食堂の食事もおいしい。三食付きの寮に滞在した私は困らなかったが、Summer Session中は閉まってるカフェテリアも多々ある。PC環境も非常に良い。

**プログラムを振り返って**

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回のプログラムでは日本で取れないようなコースを履修した。40日間という短い期間だったが、多くの内容を学んだ。クラスでの生徒、先生間のやり取りから、アメリカの学生にとって当たり前のことなのに私には新鮮なことが多々見つかった。違う環境で学んでいるのだから、既存の知識が異なるのは当然のことであるが、アメリカの学生の方が勉学に勤しんでいるのは事実である。将来、これらの学生と張り合って世界で活躍するには、日本でも真剣に勉学に取り組まなければならないと思った。同時に、日本で大学に行ったからこそ、得ることができるものか何かを考えるきっかけとなった。

②参加後の予定

1年休学して交換留学に申し込むつもりである。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

学習環境が非常に良いのでお勧めである。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

<https://login.canvas.ucdavis.edu>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

Lake Tahoe 非常に透き通った湖である。泳ぐのが気持ち良かった。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 10月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	Global Study Program- Summer Session	派遣先大学:	UC Davis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

元々は農業大学であった名残で校内では何百頭もの牛が飼われている、ちょっと変わった大学であった。ただ農業大学というわけではなく、東京大学と同じようにほとんどの学生がそれぞれ違ったものを勉強している。

参加した動機

せっかくの長期休みなので、とにかく普段とは違う環境に身を置きたかった。もちろん海外での学生生活に対する純粋な興味もあった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

とにかく提出書類が多いため、気を付けた方がよい。僕も銀行に依頼する必要がある書類が期日までに手に入らず大変だった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

これもまた取得までの手続きが多く、大変。案の定ビザ申請が遅くなってしまった。渡航1か月半くらいにやっと大使館の面接を入れたが、そのままとその数日後の別の用事での海外渡航時に手元にパスポートがないということに気付いた。慌ててなんとか日程を前倒してもらった。パスポートは1つしかないことを忘れないようにしましょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大の保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
渡航許可をもらった。試験についてはかぶりはなかった。しかし別件で追試験を受けることになったものの、その日程がプログラムと重複していて受けられなかった。考慮してもらえなかった。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEFL 97だった。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
スリッパ
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
UC Davisでは夏の間も授業があり、もちろんその授業を取る生徒もいる。3ヶ月の夏休みがSummer Session 1とSummer Session 2に分かれており、今回はそのうち後半のSummer Session 2に参加し、現地の生徒に交じて授業を受けた。履修した授業はAlgorithm Designという授業とPhilosophyの授業の2つで、6週間という短期間のため、各授業は週4日であった。 Algorithm Designは、様々なアルゴリズム、計算時間の見積もりの方法、問題自体の難しさの計り方(P, NP, NPC)などを勉強した。簡単なデータ構造に関する授業などのいくつかのprerequisiteがあったが、向こうのスタッフに相談したところ履修できた。毎週末に4問ほどプログラミングの課題があり、中間と期末があった。授業は板書スタイルがメインだった。 Philosophyのクラスでは、AIをテーマにした授業で、Mind-Body Problemなどの古典的な話題から出発し、Intelligenceに関する思想を一通り学んだ。計3回のテストがあり、最終週にはPaperの課題があった。ほぼ毎回予習としてのReadingの課題があった。
②学習・研究面でのアドバイス
Algorithm Designは専攻に近い内容であり新鮮味がなかった。むしろ積極的に専攻と関係ないものを受けてみるとよいと思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
Philosophyのクラスでバンバン質問する生徒がいて、話が脱線すると全然ついていけなかった。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)
敷地内の寮。事前にメールが来たため申し込んだ。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
おそらく一日も雨が降らなかった。大学周辺はスーパーと大きな薬局があるくらい。バスは無料で使える。食事は3食のビュッフェがついていたので全く問題なかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)
特になし
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃 196000円 授業料 416000円 教科書代 7000円 家賃(食費込) 310000円 交通費 5000円 娯楽費 20000円
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO 160000円 東大生海外体験プロジェクトによる奨学金 160000円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
ジムで体を動かしていた
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
プログラム参加学生をサポートしてくれるスタッフがいた。在学証明書の記入などを依頼した。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
どれもよい。WiFiも校舎内、部屋どこでも利用できた。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
海外で普通の学生生活を送ることができるという貴重な経験だった。海外で生活する自信は間違いなくついた。一人暮らしの経験もなかったので、それもいい経験であった。自立した学生生活を送るのは結構難しかった。授業に関しては、周りに知っている人が誰もいないという状況であったため、かえってしっかりと受けることができたように思う。そのうえで専門についてはさほど語学の面での問題は感じなかった。これは自分にとってプラスであると思う。 また、とにかく普段の環境を離れたことで、一度落ち着くことができ、日本での自分のおかれた状況を考えることができた。
②参加後の予定
まずは東大の計数工学科の学生として自分が学ばなければいけないことを把握し、そして自分の興味をよく見定めたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

夏休みがほぼ犠牲になりますが、その分好きなことができます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月26日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	Global Study Program- Summer Session 2	派遣先大学:	UC Davis
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:化粧品、食品など )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

UCの分校の一つ。元はBerkeleyの農学部の農場であったことから、キャンパスは平坦で広く、農学、獣医学では世界1位とされるほど有名である。環境学にも力を入れており、キャンパスでも他の地域に比べ環境や動物に優しくしようという努力がみられる。

参加した動機

昨年語学のプログラムに参加し、大学院留学を選択肢に入れているなかで、現地の学生がとっている授業を受けられる機会が得られることに最大の魅力を感じました。また、アメリカの大学の研究室に行ってみたく思っていたので、6週間滞在できればUC Davisや周辺の大学でその機会が得られるだろうという考えで応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大からの書類にも書かれていたとおり、UC Davisへのonline applicationは保存不可能であり、後ろのほうに参加動機などに関するessayがあるので、その部分は予めwordで作成してそれを貼り付けました。Acceptance emailが来るよりも前にUC Extension(外部学生がUCに学費を払うのに利用するウェブサイト)への登録通知が来て、acceptされたのだらうと思った記憶があります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

昨年の夏もアメリカに短期留学したため、ビザのオンライン申請手続きが大変なことを知っており、学科の授業が本格的に始まる前にHousingの直前くらいまで答えておきました。私は化学系の専攻ですが、ビザの面接のときに指紋がうまくとれず時間がかかった覚えがあります。可能なら面接の日程は実験の日程を考えて決められるとスムーズかもしれません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

頭痛薬、風邪薬、便秘薬などを持参しました。原因不明の頭痛に何度か見舞われ頭痛薬を使用する機会がありました。今推察するに脱水症状だったのではないかと思います。Californiaの夏はdry + hotですがDavisは内陸なのでより暑いので注意すると良いと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大の国際交流課から指示されたものに加入しました。OSSMAIにも念のため加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

取得単位を卒業単位に入れてもらえる可能性があったため、参加が決まってすぐに学科の事務室に行き書類をいただきました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

International Friday Loungeという工学部のイベントに時々参加して英語を話す機会を作っていました。学科の課題や実験で忙しく集中的な語学学習はできませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

チェーンロックは何かと役に立ちます。自転車に使うなら両方のタイヤを固定することを想定しましょう。また、Davisの日本食は基本的に美味しくないなので、スナックやインスタント食品があると良いかもしれません(私がいたdormには簡単なキッチンがありました)

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

コースを選んで履修し、単位を取得することを目標としたプログラムです。ビザの関係で6単位以上取るようになります。私は3単位の授業を2つ取りました。授業のスタイルはクラスによって全く異なります。私がとったものは"Design of Coffee"と"Biomolecule and Structures"です。Coffeeの方はLecture(火曜)+Lab(木曜)で、化学工学のイントロダクションのコースでした。理系にとっては易しめですが、グループワークがほとんどで、私はグループの他のメンバーが文系だったため本来より負担が大きかったように思います。Biomoleculeのコースは火曜から木曜で、全て講義でした。大まかな内容は既に東大で学んだものでしたが、こちらではとても詳しく扱っており、覚えることが多かったです。この授業は内容が多く、毎週やや重い試験があったため負担が大きかったです。

②学習・研究面でのアドバイス

5月頭に急いで履修するコースを決めさせられるのですが、そのアナウンスがある前からよく調べておくとも良いかもしれません。私は向こうにいったから片方コースを変えましたが、授業を受けてからでは変える先のコースで遅れを取ったり変える先の選択肢が狭まったりしてしまうので事前に慎重に決めましょう。また、好きな勉強場所を早めに見つけれられるとスムーズかもしれません。友達と一緒に一人か、Wifiが必要か否かなどによって決めると良いと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

片方のクラスでは教授が速く静かめに話すため何を話しているのか認識できないことがあり、よく近くに座っている学生に助けを求めました。向こうでは学生が教授や他の学生に気軽に質問できる雰囲気があるように思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Dormのほかに、Apartmentのsubleasing(この時期に卒業、留学終了するが契約期間が残っている人、帰省でapartmentを空ける人に部屋を借りること)、Homestayなどの選択肢があると思います。Dormは高いですが、友達ができますし(このプログラムは語学プログラムに比べ基本的に友達ができにくい)、エントランスと部屋がオートロックで安全性が高く、キャンパスへのアクセスが非常に良いので、おすすめします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Davisは日差しが強く、暑くて乾燥しています。一度最高気温が44℃くらいになったようです。小さい町ですが、緑が多く綺麗なところだと思います。大学のオフィスで学生証を発行してもらえば、バスやプール、ジムを無料で使えるようになります。Dormにいて、キャンパスからバスが使えても、自転車があると何かと便利です。ちなみに図書館には学生証なしで入れます。食事はdormに入ればついてきますが、似たもので次第に飽きるので時々外食すると良いと思います。美味しい日本食へのアクセスがあまりないと上に述べましたが、現地の学生のおすすめは外れないです。クレジットカード一枚とデビットカード2枚を持参しました。たまにトラブルがあるので合わせて少なくとも2枚あると良いと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

基本的に治安は良いですが、夜はとても暗くあまり人が歩いていないので、一人で出歩かないのが安全です。自転車があるとそれほど怖く感じませんでしたが、それでも一人は避けた方が良いと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

日本からの行き帰りの航空券は20万でしたがあちこち国内旅行したので+7万ほど航空券に費やしていると思います。Dormも20万ほどだったかと思います。授業料は東大とJASSOの奨学金でカバーされていたと思います。教科書は片方の授業のものが\$200したのでAmazon Rentalで\$20に抑えました。食費やその他娯楽費でいくら使ったかは定かではないです。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Davisで3つ、Berkeleyで2つ、Stanfordで2つ研究室を見学しました。San Joseに親戚がいるほかUC Davisの内部生何人かと友達になったおかげでSacramento, San Francisco, Montereyなどに連れて行ってもらいました。SacramentoとSFは自分でも比較的行きやすいです。また、週末を利用して一度KoreanのルームメイトとChicagoに行きました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

International CenterがGSPの学生向けのイベントを企画してくれますが、正直語学プログラムの学生に比べてあまり積極的には面倒を見てくれない印象です。少しでも疑問に思うことがあったら積極的に連絡を取りましょう。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はいくつかありますがどれもStudent IDなしで入れます。ジムはStudent IDかdormのIDがあれば無料で使えます。キャンパスの真ん中に食事をとれるところがあるので、テスト前のお昼などdormに戻っている時間がない時はそこで食べられます。PCは色々なところがありますが24h使えるわけではないのでlaptopを持参するのが一番です。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

アメリカの大学での自分の専攻の授業がどのように行われているのかがわかったうえ、将来アメリカで研究する機会を希望している状況で、同専攻のアメリカ人の友人ができたのは大きな収穫だと思います。また、アメリカ人や他の外国人の友人ができたおかげで語学面でも成長できたのではと期待しています。

**②参加後の予定**

大学院留学を選択肢の一つとし、準備を進めたいと思っています。

**③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

履修する授業は慎重に決め、よく計画を立てましょう。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**